

言語能力を統合して解決する問題②（第1学年）

報告者 田中大介

1 第1学年における問題出題の意図と分析の目的

- ・ 問題1は、挿絵「雨上がりの日」の内容と合っている文を3つのうちから2つ選択する問題である。題意を理解し、正しい文を選択するという点で、読解力の側面を問う問題である。
 - ・ 問題2は、「雨上がりの日」と「晴れの日」2つの挿絵を比較し、違いを見つけて記述する問題である。比較して気付いたことを正しく述べるといふ点で、創造的思考の側面を問う問題である。
 - ・ 問題3は、4枚の挿絵から雨の日の過ごし方を表している2枚を選別し、その注意事項について理由を添えて記述する問題である。題意に沿った挿絵を選ぶとともに、その意図が伝わるよう理由も併せて記述する点で、他者とのコミュニケーションの側面を問う問題である。
 - ・ 問題4は、雨が降った次の日、遠足に何を持っていくべきかを2つ、理由を添えて記述する問題である。雨上がりの日という状況に応じた持ち物を選ぶとともに、その意図が伝わるよう理由も併せて記述する点で、他者とのコミュニケーションの側面を問う問題である。
- 上記の意図を含めて、結果を分析していく。その際、「各学年の言語能力到達度目標」と関連付けながら分析を行っていく。

2 調査の結果及び考察

表1 R4年度（6月→11月）とR3年度（2月）における各問題の正答率（%）

解答\問題		1	2	3	4
R4	○	76.7→87.3△	60.2→84.3▲	7.8→46.1▲	10.7→75.5▲
	△		2.9→4.9	27.2→24.5	20.4→20.6
	×	23.3→11.8▽	25.2→9.8▽	45.6→26.5▽	48.5→3.9▼
	無	0.0→1.0	11.8→1.0▽	19.6→3.0▽	20.6→3.9▽
R3 (2月のみ 実施)	○	88.9	85.9	40.4	67.7
	△	11.1	2.0	29.3	10.1
	×	0.0	12.1	30.3	22.2

※6月より10%以上差異がある値は△（増加）▽（減少）、20%以上なら▲（増加）▼（減少）

表1から問題の意図及び差異が大きく出ている部分に着目すると、以下の2点を示すことができる。1点目は、すべての項目において6月実施の正答率を上回っていることである。このことから、読解力、創造的思考、他者とのコミュニケーションの3つの側面すべてにおいて成長が見られていると言える。2点目は、問題2、3、4における無回答率が低くなっているということである。問題2、3、4は記述式の問題となっており、自分の思いを文章で表現しようとするができるようになったと言える。特に伸びが見られた児童（5名）の検査後の発言について、以下に示す。

(1) どうして問題ができるようになったと思うか。

- ・ 文章を書くのが好きになってきた。
- ・ 前は、問題の意味が分からなくて、書けなかったけど、今は問題を読んだら意味が分かったから答えをちゃんと書けるようになった。
- ・ 自分の考えをまとめて書けるようになってきた。

(2) 成長したなと感じる学習はあるか。

- ・ 国語の学習（説明的文章）で、ノートに書いていたから、自分の考えを書けるようになった。
- ・ 問題が分からなかった時に先生が教えてくれていたから、自分で読んでも分かるようになった。
- ・ 生活の秋みつけで、いろんな葉っぱがあることに気付いたこと。

題意を理解することや、自分の考えを文章で表現することに関する発言が多かった。それらの成長が、国語科や算数科などの教科学習からくるものだという実感をもっていることもうかがえる。生活科での具体的な活動も挙げられたことから、様々な活動において、感じたことや考えたことを表現する場を設けることが重要であると考えられる。「先生が教えてくれた」という発言も数名見られたことから、基本的な「読み方」や「書き方」について、国語科を中心とした様々な学習の中で、一人一人が理解できるよう丁寧に指導することも必要であると考えられる。